

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	第2回ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会			
開催日時	令和元年11月22日（金） 開会時刻 午前10時 閉会時刻 午前11時45分			
開催場所	市役所 本庁舎3階A301会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	中村 賢一	委員	西村 正博
	委員	飯野 哲義	〃	樋口 良晴
	〃	伊東 久	〃	星野 雅志
〃	竹内 香			
会議の議題	(1) 平成30年度実施施策の効果検証について (2) ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（案）について (3) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
傍聴人の数	0人			
会議内容	別紙のとおり			
事務局	総合政策部 経営戦略室			
議事の確定	確定年月日	令和元年11月29日		
	記名押印	役職名 会長 中村 賢一 ㊟		

別紙

会議内容

1. 会長あいさつ

2. 平成30年度実施施策の効果検証についての改訂について

3. 議題

(1) 平成30年度実施施策の効果検証について（概要説明）

<主な意見等>

○「審議会の意見」における【基本目標2 ふじみ野市への新しい人の流れをつくる】においては、「市の公共施設を有効活用しながら新たな取組も検討されたい。」という表現がいいのではないか。

○施策6 「全国学習状況調査の「学力」に係る正答率」については、過去実績で全国を上回っている傾向が見られるが、これは塾に通っている生徒が増えていることが影響しているのではないか。また、市でも何か際立った学習支援の取組を行っているのか。

⇒当市では、寺子屋事業や子どもの学習支援事業を行っている。（事務局）

○基準値を国語A、算数Aなどに設定しているが、国語B、算数Bなどを基準値に入れない理由は何か。

⇒Aが基礎知識、Bが応用科目であるが、当市としては基礎的な部分を伸ばしていきたいということからAのみを基準値としている。

（事務局）

(2) ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（案）について（概要説明）

<主な意見等>

○P.1 「趣旨」の10行目「～、次の世代やその次の世代の危機感を共有して～」という文章における「危機感」という表現が市民にとってインパクトがあり過ぎるのではないかという意見が、第3回ふじみ野市まち・ひと・しごと創生本部会議で上がったという説明が事務局からあった。審議会委員として「危機感」という表現をどのように感じるか。

⇒・長期的視点で考えると人口は減少していく傾向にあることから、この先のことを含めるという意味では、「危機感」という表現に違和感はない。

・日本全体としては、少子高齢化が進み、ふじみ野市も将来的には人口が減少することが見えている。危機感という言葉があることで、市民のみなさんに問題意識を持ってもらえるのではないか。

・地方創生という概念においては「危機感」が必要であり、定義でもあると思われることから残していいのではないか。

○基本目標における数値目標とKPIに同じ指標が用いられているものもあ

るが、重複させる理由は何か。

⇒・例えば、基本目標3における数値目標「待機児童数」については、施策10のKPIにも設定している。この理由は、施策10において、「待機児童ゼロの達成」という目標が掲げられていることから「待機児童数」をKPIで設置した方がいいと考えた。また、待機児童については社会全般でも注目され、子育て環境ということを考えてと市民に影響が大きいと判断したことから、数値目標にも設定させている。(事務局)

・待機児童数がゼロになると子どもを預けられ、二人目、三人目に結びつくと考えられることから、「待機児童数」を両方に設置することで、合計特殊出生率の向上にもつながるのではないかと。

・基本目標とKPIに設定することについては、市がどこに着眼して、重点を置いているのかということであり、市の意思が明確になっているのではないかとと思われる。

○現行の総合戦略においては、各取組における個別事業などを列記している取組もあるが、改訂案における総合戦略の各取組は、個別事業を列記せずに、説明文で読み込めるようにしているとのことである。個別事業などの具体的な取組については、どのように市民に情報提供するのか。

⇒市報やHP、自治組織連合会の回覧板等で案内していく予定である。(事務局)

○「子ども家庭総合拠点」など専門用語については、一般的な市民が分かるのか。分からないような文言については、本総合戦略に記載するのではなく、都度、市の案内等で周知する時に、説明するようにしてほしい。

○基本目標4の数値目標が、以前は「市内循環バス利用者数」であったが、「市内循環ワゴン一便当たりの平均乗客数」に変わった理由は何か。

⇒全体の利用者が順調に伸びている中で、利用が多い便などを分析し、便全体の利用率の向上について研究していくためである。

○P.3「**■**第2期における新たな視点 抜粋」の記述においては、国の内容を記載しているということを知りやすくするために、出典を入れた方がいいのではないかと。

○P.9「8.基本目標 ふじみ野市総合戦略基本目標」の4においては、国の表現をそのまま使用しているが、市に合った表現でもいいのではないかと。

○施策11のKPI「放課後子ども教室の登録率」などはパーセンテージの表記でいいのか。母数を明確に示してほしい。

⇒改訂の検討の中で変更した項目である。放課後子ども教室は、学校の余裕教室を借りて行っている。余裕教室が確保できないと母数の定員が減ることになり、実績と比較しにくいいため、登録率とした。実績は、効果検証報告書を作成する中で示したい。(事務局)

○施策13のKPI「環境学習講座実施回数」においては、「回数」ではなく「参加者数」でなくていいのか。

⇒施策所管課に戻し、検討してもらう。(事務局)

○施策6 「2) 学びを通じた郷土愛の醸成」について、題名と説明文が合致しないように感じる。表現を工夫してはどうか。

⇒会長と事務局で検討する。

○施策6のKPI「CSディレクターの人数」の注釈では、「コミュニティ・スクール」という表現が使用され、施策6「2) 学びを通じた郷土愛の醸成」では、「地域協働学校」という表現が使用されているが、統一した方がいいのではないか。

⇒注釈については、「コミュニティ・スクール(地域協働学校)」と入れる。
(事務局)

○P.10 「(2) ふじみ野市総合戦略におけるSDGsとの関連性」におけるロゴ内の文言が見えにくいため、もう少し大きく表示できないか。

⇒可能な範囲で最大限大きくする。(事務局)

○P.7 「4. 計画の期間」において、なぜ次期総合戦略は4年間としているのか。

⇒市の最上位計画である「ふじみ野市将来構想 2018 from 2030 前期基本計画」の計画期間が令和5年までとなっており、今回改訂を行う総合戦略の次の計画を策定する必要がある場合には、後期基本計画と統合することを検討している。そのため、計画期間を将来構想 前期基本計画の終了と合わせ4年間とした。(事務局)

(3) その他

事務局(連絡事項説明)

4. 閉会